

発言No. 14

受付No. 15

令和 8 年 6 月 9 日
11 時 58 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番 氏名 花田 香

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 すべての子どもが安心して過ごせる放課後の居場所づくりについて

共働き世帯の増加や家族形態の多様化に伴い、放課後児童クラブは子どもたちの安全な居場所として重要な役割を担っている。児童クラブは単なる預かりの場ではなく、放課後を安心して過ごし、友人との関わりや様々な経験を積み、育つ場でもある。

また、発達障がいを持つ子どもたちや不登校児童、家庭環境に課題を抱える児童など、多様な支援を必要とする子どもたちへの対応も求められている。

子どもたちが安心して放課後を過ごし、健やかに成長できる環境を整えることは、子育て世代への支援のみならず、地域全体の将来につながる重要な課題であると考え。また、これからの子育て世代に選ばれるまちづくりを進めるためにも、環境を整備することは必須であると考え。

そこで以下について伺う。

(1) 放課後児童クラブの現状について

①放課後児童クラブの設置状況、利用児童数及び支援員配置の状況について伺う。

②利用希望者の推移及び待機児童の状況について伺う。

- ③施設環境や安全対策について、国の基準では児童一人当たりの専用区画面積が定められているが、本市の施設において狭あい化しているクラブはないか伺う。

(2) 特別な支援を必要とする子どもへの対応について

- ①発達障がいを持つ児童など、特別な配慮を必要とする児童の受入れ状況について伺う。
- ②加配職員の配置及び職員研修の実施状況について伺う。
- ③放課後等デイサービスや児童発達支援事業所との連携状況について伺う。

(3) 不登校児童及び家庭に課題を抱える児童への支援について

- ①不登校児童の放課後における居場所づくりについて市の考えを伺う。
- ②ヤングケアラーや家庭環境に課題を抱える児童への支援との連携について伺う。
- ③学校、放課後児童クラブ、福祉部門及び関係機関との連携体制について伺う。

(4) 今後の子どもの居場所づくりについて

- ①子どもの視点に立った放課後の居場所づくりについて市の考えを伺う。
- ②放課後子ども教室や地域住民との連携について伺う。
- ③すべての子どもが安心して過ごせる地域づくりに向けた今後の取組について、市長の見解を伺う。

2 新型コロナワクチン接種及び健康被害救済制度について

新型コロナウイルス感染症は5類感染症へ移行し、ワクチン接種も特例臨時接種から定期接種へと移行した。

一方で、全国では予防接種健康被害救済制度への申請件数が増加しており、接種による利益とリスクの双方について正確な情報提供を求める声も多く出ている。

市民が安心して医療を選択するためには、接種を希望する方への支援だけでなく、副反応や健康被害を心配する方への相談体制も重要であると考える。

そこで以下について伺う。

(1) 本市における新型コロナワクチン接種の状況について

- ①これまでの接種実績はどのような状況か伺う。
- ②現在の定期接種対象者数と接種率はどのような状況か伺う。
- ③ワクチン接種後の死亡、重篤な後遺症などの状況を把握しているか伺う。

(2) 本市に寄せられた副反応等に関する相談状況について

- ①相談件数はどの程度あったのか伺う。
- ②どのような相談内容が多かったのか伺う。

(3) 予防接種健康被害救済制度について

- ①申請件数及び認定件数はどのような状況か伺う。
- ②市は訴えのあった方に、どのような支援を行っているのか伺う。

(4) 市民への情報提供の方法について

- ①接種の有効性だけでなく、副反応や健康被害救済制度についても市民へ適切に周知されているか、状況を伺う。
- ②また、相談窓口の周知は十分に行われているのか伺う。

(5) レプリコンワクチンを含む今後の新たなワクチンへの対応について

- ①市としてどのような情報収集を行い、市民に対してどのような情報提供を行う考えか伺う。
- ②市民の中には接種を希望する方もいれば、不安を抱く方もいる。人口減少や健康寿命にも少なからず影響を与えているのでは、という懸念も聞かれる中で、市としては特定の立場に偏ることなく、科学的根拠に基づいた情報提供と相談支援を行うことが重要と考えるが、市長の見解を伺う。